



主要事業の現状と見通し

(2003年1月14-15日開催上海・タイ工場視察ツアー)

会社説明会

2003 (平成15) 年 1月21日

代表取締役社長

山本 次男

専務取締役 第一製造本部長

小原 陸郎

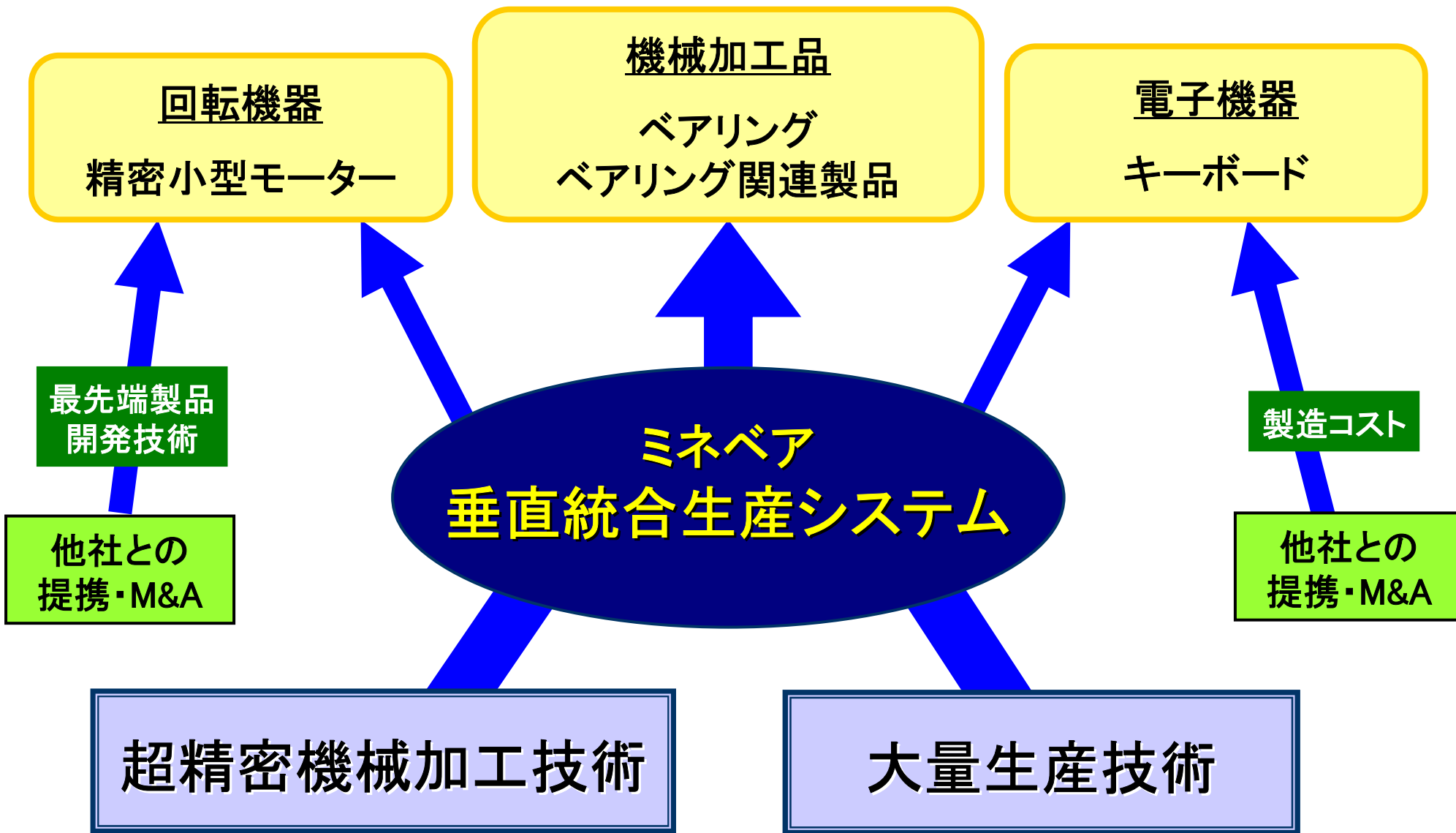
エレクトロデバイス部門部門長

藤田 博孝

目次

1. 事業方針
2. 中国におけるビジネスの現状
3. タイ ロップリ工場の展開
4. ライティングデバイスの紹介
5. ボールベアリング
6. HDDスピンドルモーター
7. タイ バンパイン工場その他製品

事業方針



中国におけるビジネスの現状

10年前 進出当時の目的

- ▶ 巨大な中国の市場への参入
- ▶ リスク分散
- ▶ 新たな製造原価の物差しづくり

当社超精密機械加工技術の活用と最新鋭の自社製自動化設備の導入

⇒ 順調に事業展開・拡大

製造品目

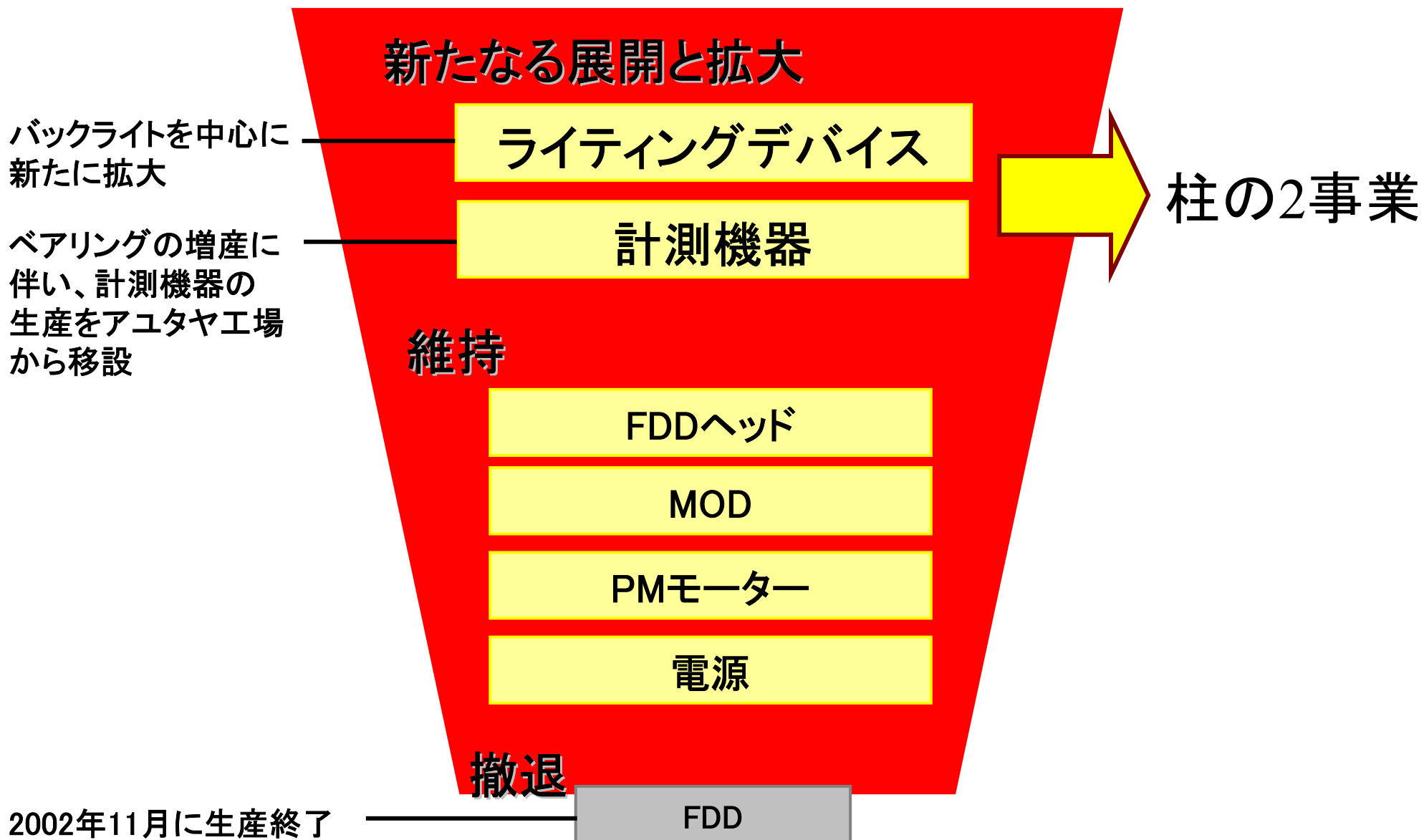
ボールベアリング
ファンモーター
計測機器
部品部門

キーボード

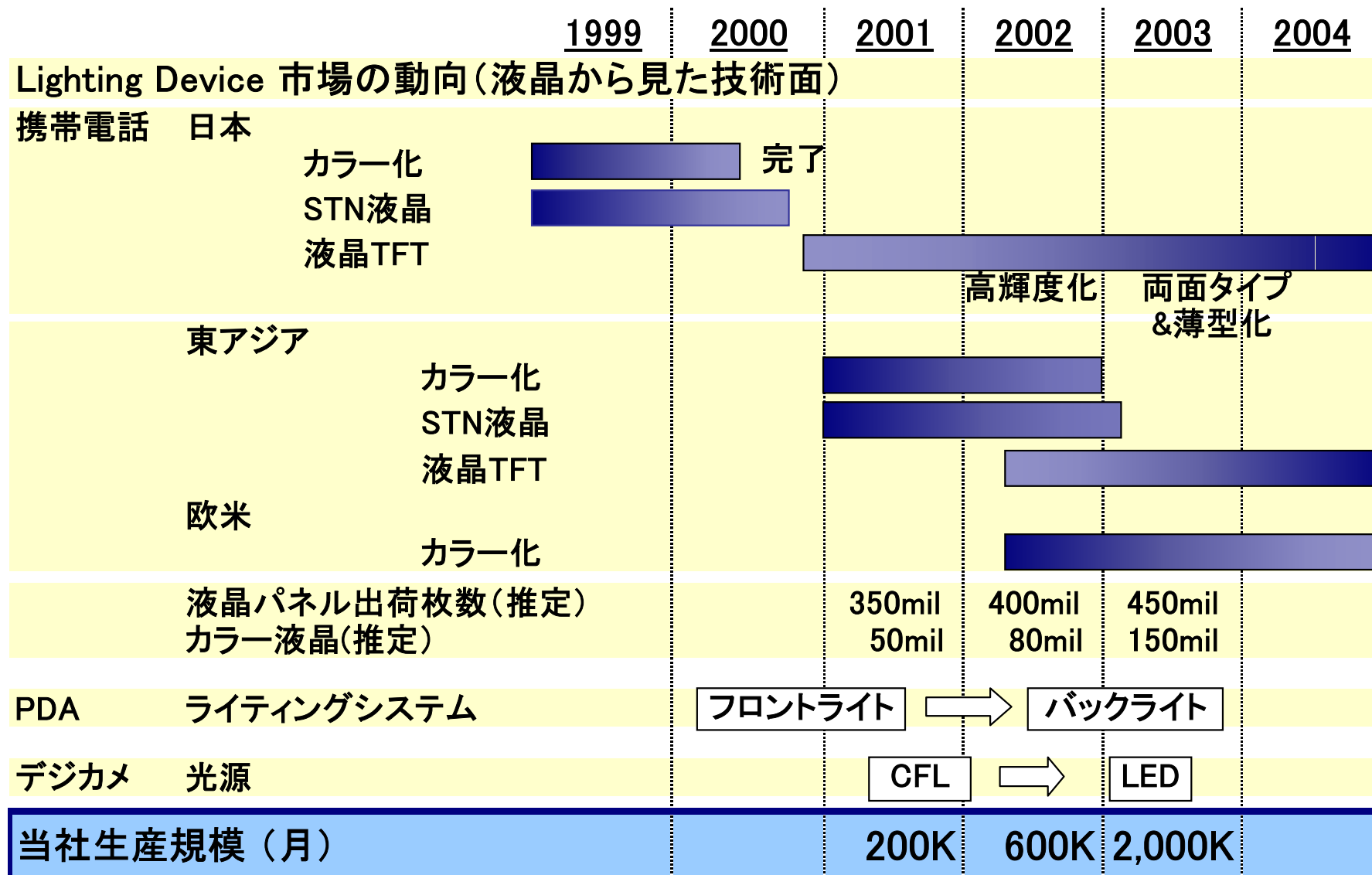
重点取り組み内容

- ▶ 中国国内市場の取り込み
- ▶ 一層の製造原価低減
⇒ 他地域への横展開
- ▶ 中国のコストの活用

タイ ロップリエ場の展開



ライティングデバイス事業の紹介



ボールベアリング1億8,000万個体制確立へ

拡販

2002年11月	1億4,000万個達成
2003年3月	1億5,000万個目標
2004年3月期中	月1億8,000万個達成目指す

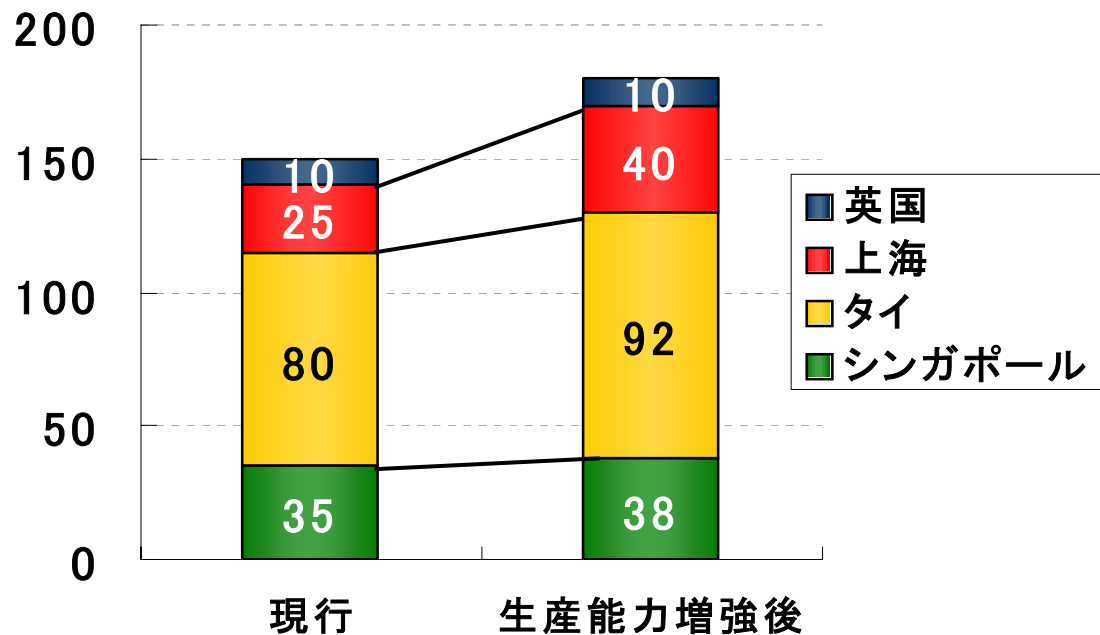
生産能力増強

既存機械の改造にすでに着手
納期が長い設備機械一部発注済み

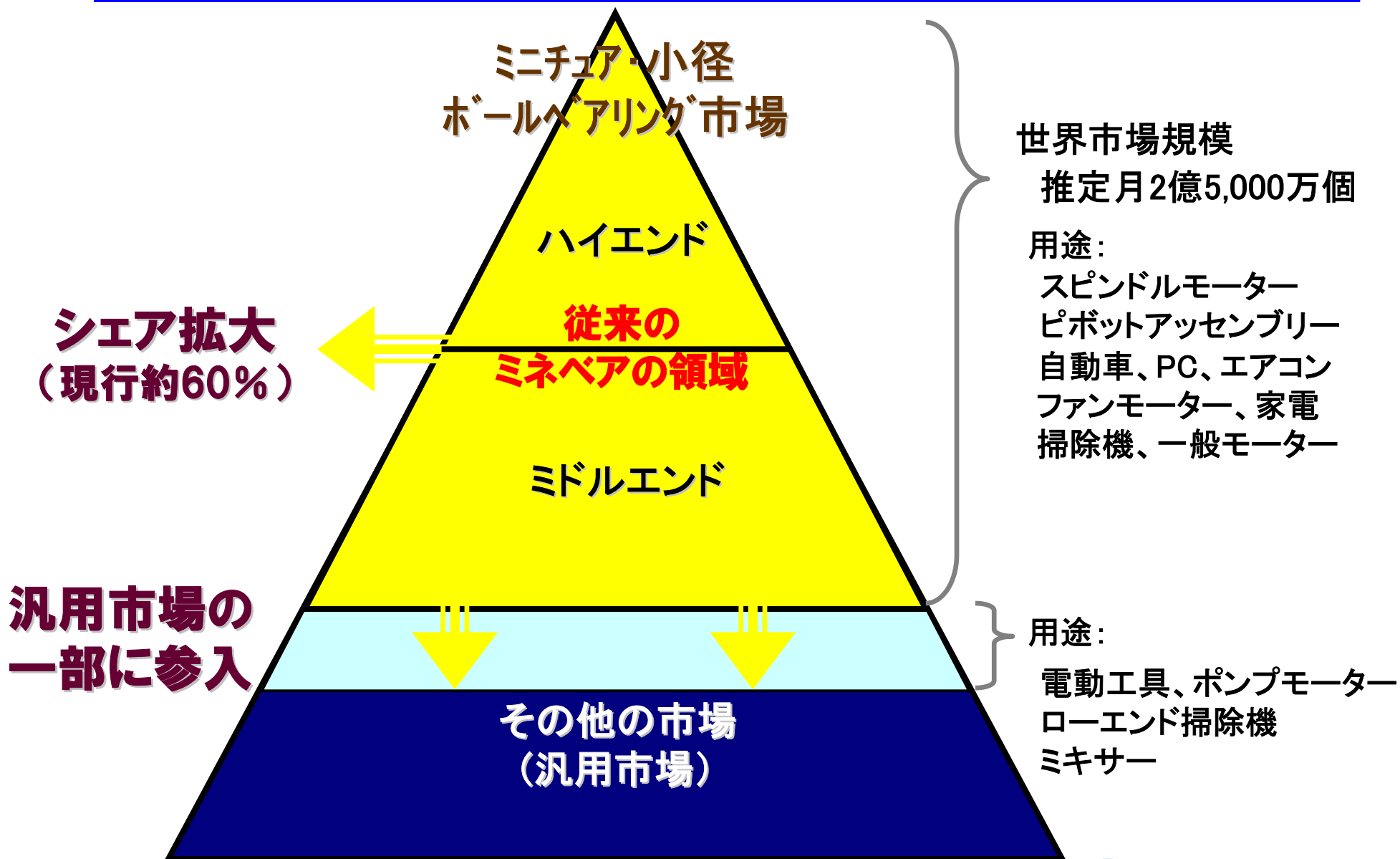
2003年末までに
月1億8,000万個体制構築予定

設備投資 95 ⇒ 50 億円
工場スペース 増やさず
人員 増員せず
設備機械 最低限の新設備

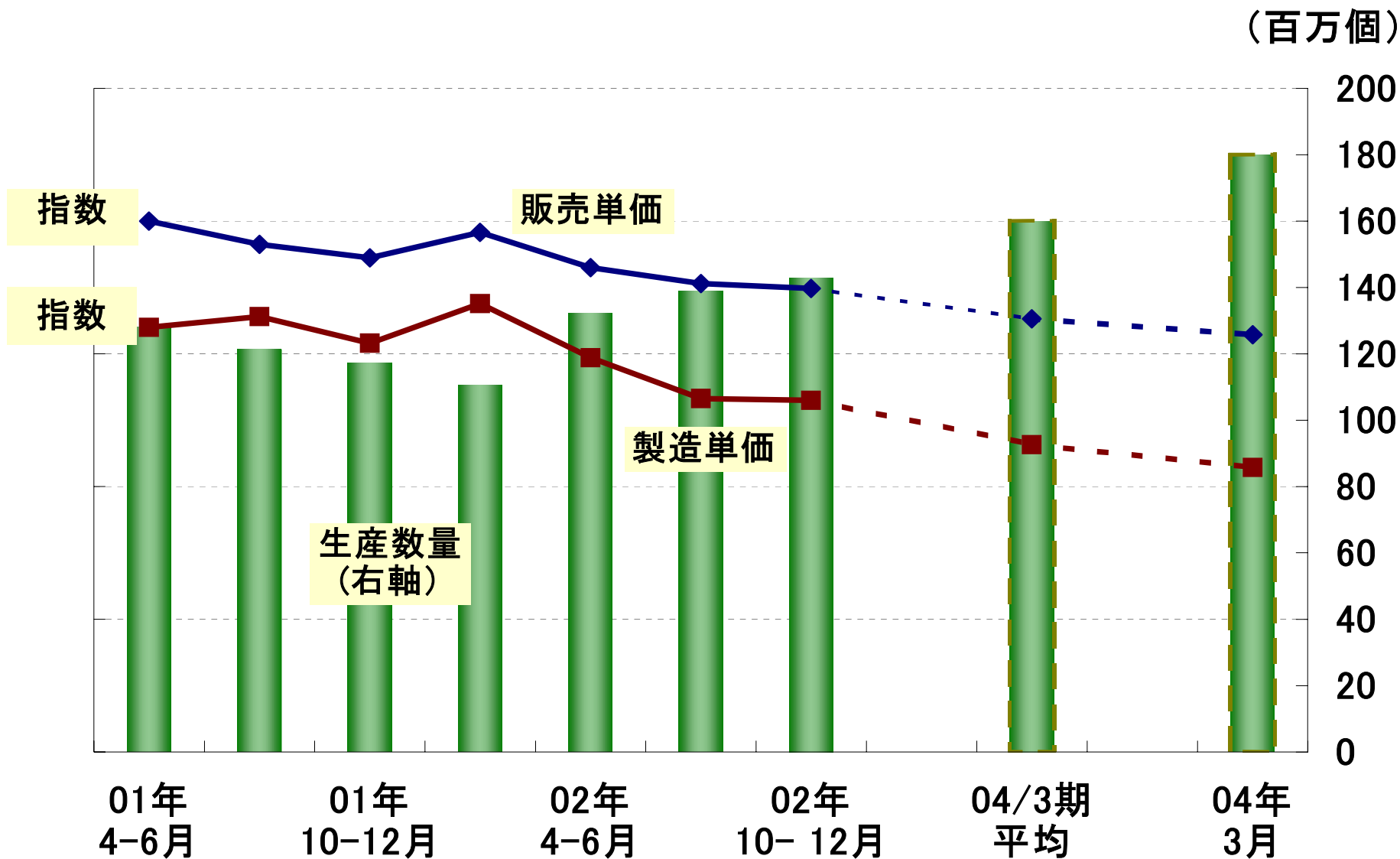
(月産/百万台)



ボールベアリング事業拡販戦略

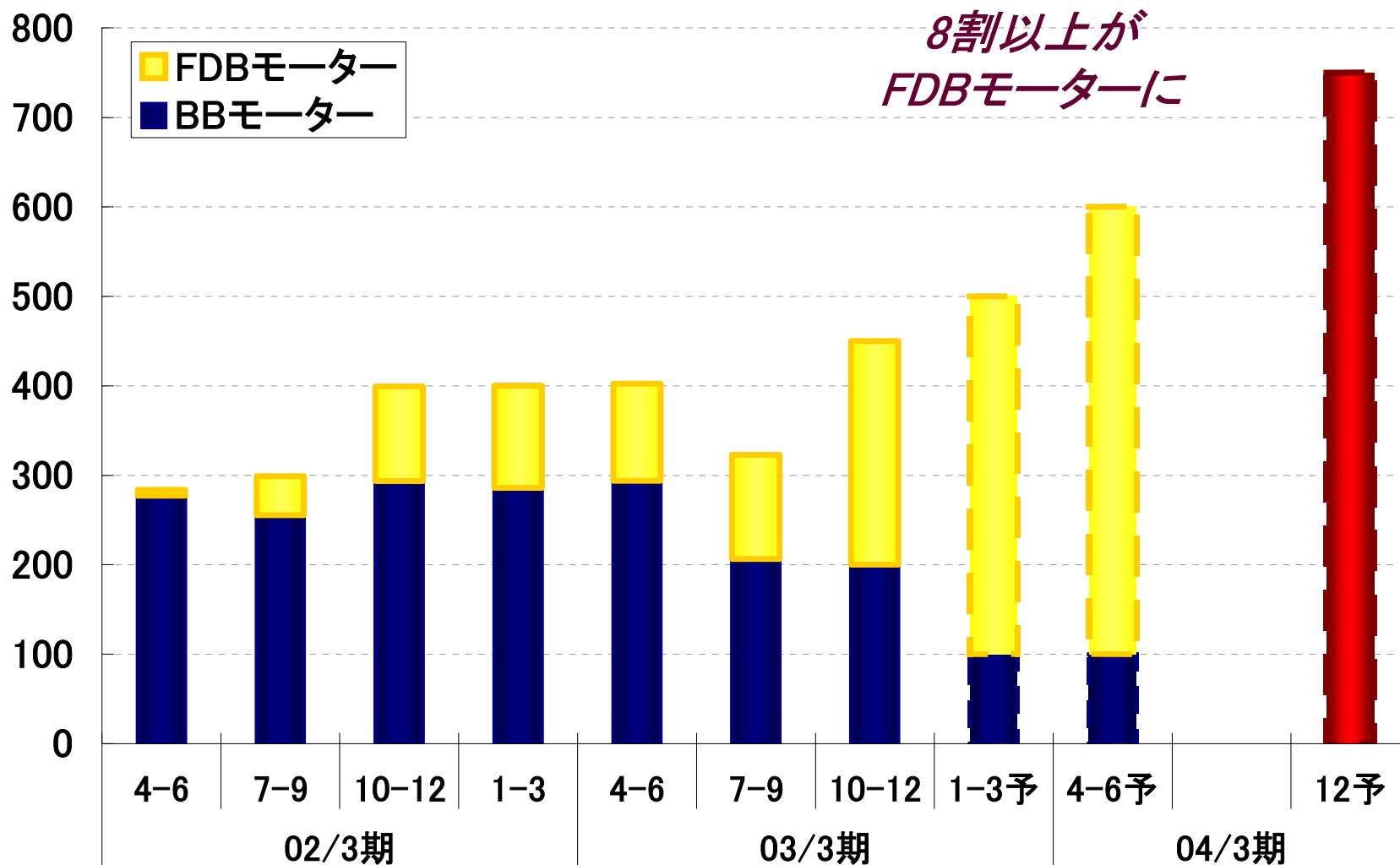


ボールベアリング 販売単価・製造単価・生産数量の推移



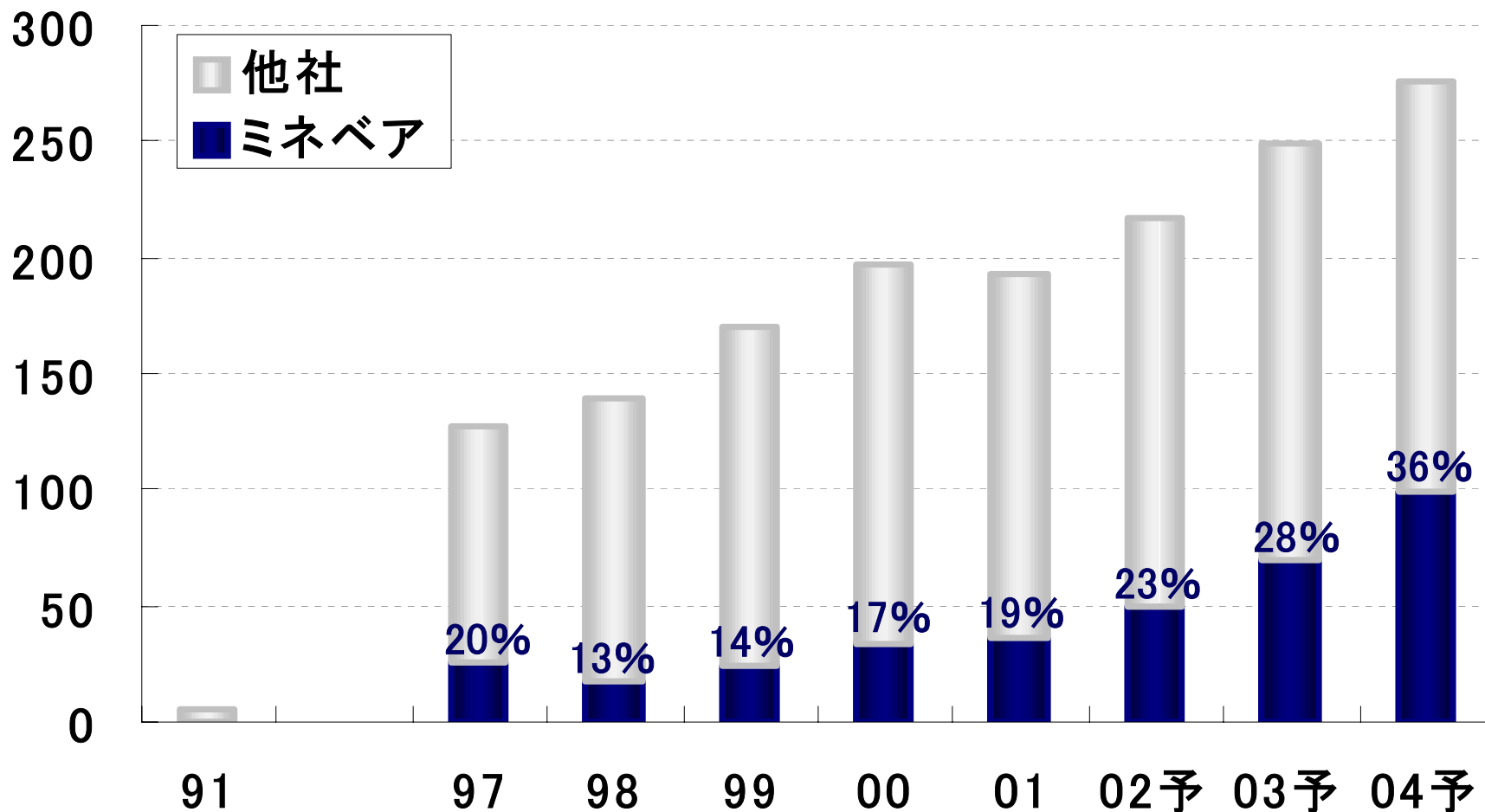
HDDスピンドルモーター販売数量推移・見通し

(万台/月)



HDDスピンドルモーター販売数量推移・見通し

年間（百万台）

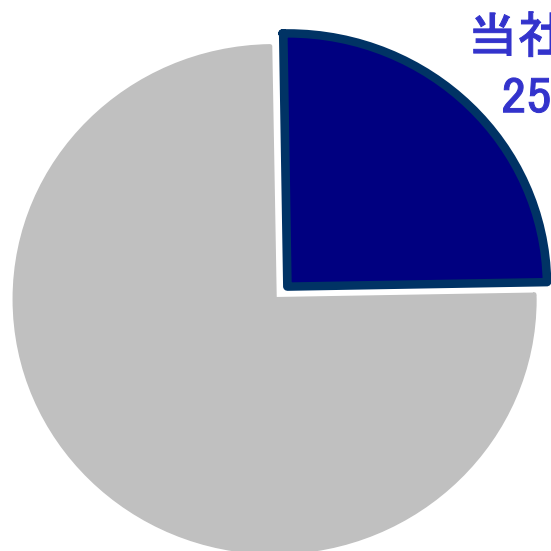


⇒ シェアはほぼ計画通り着実に増加

HDDスピンドルモーター事業の現状

3.5インチデスクトップ

市場シェア及び市場規模：
2002年10-12月



当社現行シェア
25%

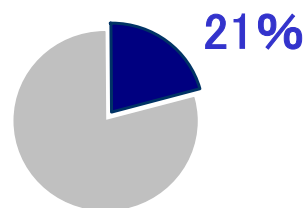
* FDBモーターにおける
シェアは50%近く

月1,500万台市場

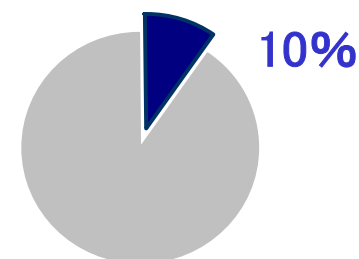
次なるターゲット

ハイエンドサーバー

2.5インチ以下



月200万台市場



月300万台市場

HDDスピンドルモーター事業 今後の戦略

- 2003年4-6月に月600万台、黒字化
- 2003年7-9月に黒字安定化、拡大へ
- 2003年12月750万台目指す

⇒ 3.5インチのみで黒字基盤を構築

- ユーザーのFDB化に合わせて順次3.5インチ売上拡大中

⇒ 次なる戦略

ハイエンドサーバー及び2.5インチ以下での拡販

- ⇒ プロダクトミックスによる収益拡大を目指す
 - ハイエンド売上拡大中
 - 松下モーター社向け2.5インチ部品供給をすでに開始、来期中に完成品供給開始予定
- **機械加工・組立とも現有スペースで月1,000万台生産可能**

鍵は超精密機械加工

ファンモーター・キーボード・ピボットアッセンブリー

- 全事業部で部品部門を強化

ファンモーター

- 現在、上海工場で月650万台生産、今年10月以降月800万台へ
- 松下モータ社との共同開発を軽井沢で開始

キーボード

- 生産・販売は順調に拡大
- ハンシンググループと合併で生産を開始、量産モデルの売上拡大を図る

ピボットアッセンブリー

- 2003年1-3月は月1,500万台（前年比 50%増）
- 同一フロアスペース、設備機械、人員数による増産を実現

キーボード新工場

Shanghai Shun Ding Technologies Ltd



世界最強の総合精密部品メーカーへ

活力のある内製部品部門が全てを支える

ボールベアリングと同様に徹底的な生産性向上を推進

- フロアースペースあたり
- 設備機械一台あたり
- 人員一人あたり

あくなき挑戦

主要事業の現状と見通し

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。